



資料

鳥インフルエンザ（バードフルー）に関する基本的情報

鳥インフルエンザ

A型インフルエンザウイルスは鳥、豚、馬、アザラシ、鯨などの数種の動物に感染します。鳥類に感染するインフルエンザウイルスは「鳥インフルエンザウイルス」と呼ばれています。公知のA型インフルエンザ亜型はすべてA型インフルエンザウイルスの自然宿主とみられる野鳥の間で感染するので、鳥類は特に重要です。鳥インフルエンザウイルスは通常[鳥類から]ヒトへは直接感染せず、ヒトの間でも感染しません。

A型ウイルスはその表面蛋白である赤血球凝集素（HA）とノイラミニダーゼ（NA）を基に亜型に分類されます。現在までに15種の亜型ウイルスが確認されており、その全種が鳥類に発見され、3種類のHA（H1、H2及びH3）亜型、2種類のNA（N1及びN2）亜型ウイルスがヒトに広く感染することが知られています。

通常野鳥は鳥インフルエンザにより発病することはありませんが、家禽類は鳥インフルエンザにより重度の症状を呈し、死亡することもあります。A型鳥インフルエンザウイルスは通常ヒトには感染しませんが、1997年以降ヒトへの感染や集団発生のケースが数例報告されています。感染の報告を受け、公衆衛生当局ではヒトへの感染がさらに広がる可能性を懸念し、状況を注意深く監視します。

鳥インフルエンザのヒト感染

1997年以降の鳥インフルエンザウイルスのヒト感染の確認例は次の通りです。

- **1997年:** 香港にて鶏とヒトがA（H5N1）型鳥インフルエンザに感染。初めて鳥からヒトへの直接鳥インフルエンザウイルス感染が確認された。集団発生で18名が入院、6名が死亡。流行を防ぐために、関係当局はウイルス源である鶏150万羽を処分。ヒトの間での感染もまれに見られたが、主に鳥からヒトへウイルス感染が広がったと科学者は判断。
- **1999年:** 香港にてA（H9N2）型鳥インフルエンザ発症例（子供2人）が確認された。両者とも回復、この2人以外の発症例は確認されていない。感染源は家禽で感染経路は鳥からヒトであることを示唆する証拠があるが、ヒトからヒトへの感染の可能性も否定できない。この他に、1998～99年、中国本土にてH9N2型のヒト感染が数例報告された。
- **2003年:** 中国へ旅行した香港の一家族のうち2人がA（H5N1）型インフルエンザに感染し発症。一人は回復、もう一人は死亡。この2人がどこで、どのように感染したかは不明。また、この家族のもう一人が中国で呼吸器系疾患で死亡したが、原因説明ができるような詳しい検査は行われなかった。この他のケースは報告されていない。
- **2003年:** オランダでの鳥インフルエンザ集団発生の期間中に養鶏業従事者とその家族の間でA（H7N7）型鳥インフルエンザ感染が確認された。80例以上のH7N7型感染症が報告され（主に眼科感染症の症状に限られたが、呼吸器系疾患症状も多少報告された）、死者1人（感染養鶏場を訪れた獣医）。ヒトからヒトへの感染が確認された。
- **2003年:** 香港にてH9N2型感染症（子供1人）が確認されたが、入院後回復した。

鳥インフルエンザ（フルー）についての基本情報 (前頁から続く)

鳥にみられる鳥インフルエンザの症状の特長

特定の水鳥はインフルエンザウイルスの宿主で、腸内でウイルスを運び体外へ放出します。ウイルスは感染した鳥の唾液、鼻分泌液、糞の中に潜んでおり、感染しやすい鳥が既に感染した鳥の鼻や呼吸器からの分泌物や糞に接触すると鳥インフルエンザウイルスの感染が広がりますが、糞から口への感染経路が最も一般的です。

殆どのインフルエンザウイルスは何の症状も引き起こさず野鳥に軽度の症状が観察されるのみですが、鳥にみられる症状はウイルス株及び鳥の種類により非常に異なります。特定の A 型鳥インフルエンザウイルス（例、H5 や H7 株）は、野鳥、特に鶏や七面鳥のような家禽類の間で流行し死亡する場合があります。

ヒトにみられる鳥インフルエンザの症状の特長

ヒトにみられる鳥インフルエンザの症状としては、典型的なインフルエンザの症状（例、発熱、咳、のどの痛み、筋肉痛）から眼科感染症、肺炎、急性呼吸窮迫症、ウイルス性肺炎、その他重症及び致死的合併症まで様々な症状が報告されています。

インフルエンザ用抗ウイルス剤

この分野での研究によると、ヒトインフルエンザ株の認可処方薬箋はヒトの鳥インフルエンザ感染予防に効果的であると報告されています。

インフルエンザパンデミックの可能性

全ての種類のインフルエンザウイルスは変化可能であり、鳥インフルエンザウイルスも [鳥類から] ヒトへ感染し、ヒトからヒトへ容易にうつり感染が広がることは可能です。これらのウイルスは普通ヒトへは感染しないため、ヒトには該ウイルスに対する免疫が殆ど又は全くありません。鳥ウイルスがヒトへ感染し、ヒトからヒトへ容易に感染すると「インフルエンザパンデミック（世界的大流行）」が始まります。

パンデミックの背景

「インフルエンザパンデミック」とはインフルエンザの世界的規模での集団発生のことで、新種インフルエンザウイルスが出現し、感染が広がり、世界各地で死者を出すような状況を意味します。過去下記のような「インフルエンザパンデミック」により重症患者や死者が多数発生し、社会的混乱や経済的損失といった大きな影響をもたらしました。

20 世紀には次のようなパンデミックが 3 回発生しました。全て最初の感染が確認されてから一年以内に世界的大流行となりました。

- **1918～19 年、「スペイン風邪」インフルエンザ、[A (H1N1) 型]**, 公知インフルエンザによる死者数は過去最大。米国内死者数約 50 万人、死者数の世界各国合計は 2,000 万人から 5,000 万人ともいわれる。感染後 2～3 日以内に死亡したケースが多数、また、感染後合併症により死亡したケースもある。死者のうち約半数は健康な若者。
- **1957～58 年、「アジア風邪」インフルエンザ、[A (H2N2) 型]**, 米国内死者数約 7 万人。1957 年 2 月下旬に中国にて第一感染者が確認され、1957 年 6 月までにアジア風邪（インフルエンザ）の感染は米国に広がった。
- **1968～69 年、「香港風邪」インフルエンザ、[A (H3N2) 型]**, 米国内死者数は約 3 万 4 千人。このウイルスは 1968 年初頭に香港で確認され、同年後半には米国までその感染が広がった。A (H3N2) 型ウイルスの感染は現在も報告されている。

世界的大流行を引き起こすような新種インフルエンザウイルスが出現しその感染が広がると、ヒトの間での感染経路が確立し長期にわたって感染が続きます。米国疾病予防センター（CDC）と世界保健機構（WHO）では世界的大流行を引き起こす可能性のあるインフルエンザウイルス株の出現や世界的規模のインフルエンザの発生動向を監視する広域サーベイランスプログラムを実施しております。

詳細に関しては、www.cdc.gov/flu をご覧ください。また、CDCの一般利用者向けホットライン (888) 246-2675 (英語)、(888) 246-2857 (スペイン語)、(866) 874-2646 (TTY) にも情報を提供しております。

2004 年 1 月 15 日

2 頁目 (頁数 : 2)

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES
CENTERS FOR DISEASE CONTROL AND PREVENTION
SAFER • HEALTHIER • PEOPLE™

保健社会福祉省
疾病予防センター
より安全で健康な人々